

研究紹介

山崎スコウ 竜二

山梨県立大学 特任准教授
地域人材養成センター／国際政策学部（兼任）

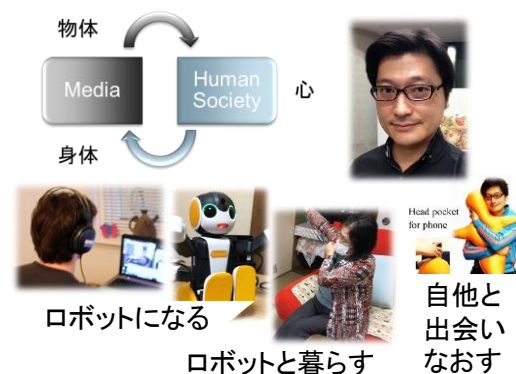
大阪大学 招へい准教授
先導的学際研究機構附属共生知能システム研究センター

Aarhus University (Denmark), Associate Professor
Faculty of Arts, School of Culture and Society,
Philosophy and History of Ideas, Research Unit for Robophilosophy

哲学、知識科学、ソーシャルロボティクスを専門として、特にメディア技術を介した対話の可能性や意味を探り、身体性、自他の関係性、人間性を開発、開示するメディア哲学の学際的研究を実験やフィールドワークを通して行っています。この研究手法は、人間の身体やロボットなどのコミュニケーションメディアの開発と活用を通じて、人々と機械からなる新たなコミュニティと社会的現実を創造し、その影響を調査・分析して考察するものです。たとえば、あなたが身体を着替えるようにアバターやロボットになったりそれらと同居や〈隣人〉として暮らしたりするとしみましょう。そこから、どのような心理や認知的・身体的・地域的活動が生じてくるのでしょうか。さらにはどのようなコミュニティや価値を生み出すことができるのでしょうか。ここにはデザインによる地域の活性化という課題も含まれます。しかし、そうした活動を通じて、人間は一体何者になろうとしているのでしょうか。

人は作ったものによって作られる循環を生きているというメディア論や存在論的デザインの観点から、少子高齢化や地球温暖化などのローカル・グローバルな社会課題の解決や未来社会の構想に取り組んでいます。そこには、文理等の分野横断的な知の活動としての社会技術の役割を再考する課題がありますし、技術が物ではなく知であって私たちの意識に働きかけるものであることも考慮する必要があります。同時に、技術と絡み合った私たち自身がどんな存在であり、メディアによる変身やコミュニケーションを通じて秘めていた能力、利他性などのポテンシャルや本性に関してどのような側面を見出しうるのか、人間の自己理解に省察を加えることも喫緊の課題として取り組んでいます。

メディア技術による現場変革のフィールドワークは日本やアジアに限らず、特にデンマークなどの北欧やイギリスやドイツ等のヨーロッパを中心に中東も含めて比較文化研究に



及びます。とりわけケア学の技術論的な新領域を現場から開拓することに焦点化して、人が生きる関係性の網の目や遠隔地を含むコミュニティの成り立ち方、well-being のあり方や考え方を見直しています。何より現場に生きる人や実際のユーザの声に耳を傾け、言語や慣習の違い、取り巻く環境や歴史、制度などの背景を観察、考慮することを重視してフィールドワークを行います。そのうえで、身体性を含むコミュニケーションの多様なチャンネルを探り、ロボットやAIとの支え合いの仕組みと併せて人間のサービス、従属などの機械との共存における倫理を各国の臨床の現場から考察する取り組みを進めています。

人間だけでは解決が難しく実際にできていない課題を抱える人間社会にメディア技術としてロボットのような新しい存在者の助けを借りてハーモニーをもたらすことはできるのか、こう問いながらメディア技術による調和学の構築に向けた研究の挑戦は続きます。その際、ロボット哲学・倫理、ソーシャルAI、ELSA、縁遠いと思われるかもしれない文学も本質的な要素として取り入れながら、授業等で学生の議論、市民との対話も促します。教育は研究の延長上に位置づけています。研究に興味があって来られるゼミ生のみなさんは、他者、自己との出会いや世界への住み方を、技術・芸術（両者を含むテクネーの知）の考察から再創造するテーマを選択します：

- ・ **Community Design Study**：地域に生きる意味とその場を作る技法を考えます。「人が共存する新たな形」を創るため、人や環境との関係性を問い直すケア学に焦点化し、ソーシャルアートの実践やメディア技術の活用を理解を深め、提案を試みます。
- ・ **Social Robotics**：遠隔コミュニティ創生のデザインレッスンとしてテレプレゼンスロボットを活用した研究の演習を企画し、実践します。併せて人類学、人間学的なフィールドワークと考察、データ解析による混合研究法に演習を通して親しみます。
- ・ **Technological Cultural Study**：福祉国家の北欧文化、「幸福の秘密」に主眼を置き、デザインや平等、価値観の日本との対比から国際比較による文化創造の研究の創発に向けて、特にメディア技術が社会、文化、人類をどう形作るのかを議論します。

人間とは何かを問い、作る・創ることによって人らしさを磨き上げることができる理念の名として人間性工学（Humanity Engineering）を提唱しています。本学の新学科を考えるうえで、こうした教育を考えることも研究の一環になるかもしれません。企業との共同研究を行っており、企業の方と話す機会などがあると学生にとって刺激を受ける場にもなっています。学術活動では、デンマークはオーフス大学の同僚とロボット哲学（Robophilosophy）という学会を創設し、学問領域を開拓してきました。北欧などの海外での共同研究は以下のように環境が整っており、学生にも積極的に取り組んでもらいたいと願っています。

<https://cas.au.dk/en/robophilosophy/projects/cscd/researchers>

こうした学会や海外のチームへの案内を行い、学部を越えて関心のある学生のみなさんが積極的に国際会議にも参加できるように場を設けて支援しながら、関わる人が共に育つ研究と教育の環境を育んでいます。